

高等部3年池田さん作成 「聴覚障がい者理解啓発パンフレット」

高等部3年の池田理奈さんが、2020年4月に愛媛大学主催の社会共創コンテスト2020研究探求部門で、準グランプリを獲得しました。池田さんは、「誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて -聴覚障がい者の視点から、意識調査を通して-」をテーマに、障がい者と健常者の間にある壁を少しでも解消することを目的として、障がいについて、正しい理解を広げるための意識調査と、その結果を基にした啓発パフレットの作成を行いました。

池田さんが作成したパンフレットには、健常者が聴覚障がい者に対して抱きやすい誤解が解消されるよう、丁寧に解説されています。学校だけでなく、身近な方にも紹介し、聴覚障がい者についての理解を拡げていきましょう。



「聴覚障がい」って?

「聴覚障がい」は、きこえに障がいがあり、音が聞こえない(にくい)障がいです。音の大きさはdB(デシベル)で表します。以下のように、聞こえる音の大きさによって、障がいの程度を分けています。

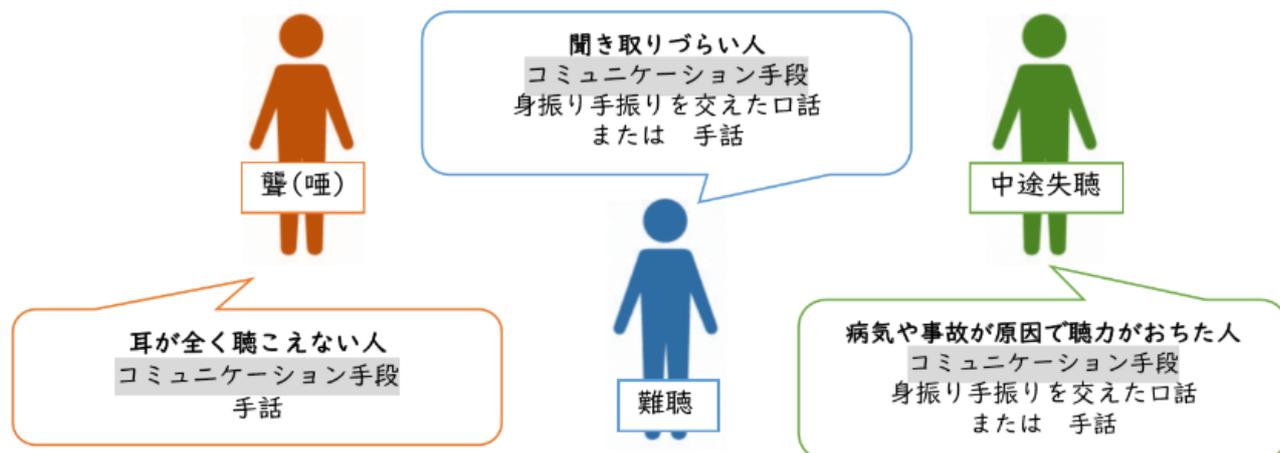
120	100	80	60	40	20	0dB
重度難聴	高度難聴		中等度難聴		軽度難聴	正常
ジェット機	車のクラクション 工事の音	ピアノの音 トラックの走行音	日常会話		小雨の音	小鳥のさえずり 呼吸の音

でも! 高い音が聞きにくい人、低い音が聞きにくい人等、聞こえには、音の周波数(高低)も大きく関係しています。どんな音も、大きくすれば聞こえるわけではありません。

また、音は聞こえても、それが何の音が判別できなかったり、言葉として認識できなかったりすることも多々あります。

様々な聴覚障がい者

皆さんはご存じですか? 「聴覚障がい」と言っても、皆一緒ではないのです。聞こえなくなった時期や、聞こえ方、コミュニケーション手段は人によって違います。



でも! 私たちは手話を使えば、全てを理解できるわけではありません。手話を使えない聴覚障がい者もいます。耳が聞こえないから、話すことも難しいのでは?と思われることがありますが、私達、話せます! 聞き取りづらくかもしれませんが、「声が出ない」わけではないのです。

こんなの使って生活してます



補聴器

様々な形、種類の補聴器があります。
耳穴型、耳掛け型を使っている人が多いです。
音を大きくする役割があります。

人工内耳

手術をして体内部分（左）を頭に埋め込みます。
体外部分（右）は耳にかけて使います。
体外部分で拾った音を、電流に変えて、体内部分に伝達し、
神経を刺激することで音に変えています。



※補聴器や人工内耳は、個々の聴力に合わせて調整されており、種類もちがいます

でも！これらの機械を付けても、聞こえる人達と同様に聞こえるようになるわけではありません。
どうしても聞こえない音もあるのです。また、雑音も同じように大きくなってしまったり、
音が聞こえる方向が分からなかったり、不便なこともたくさんあります。
両耳に付けていたり、片耳だけだったり、使わない聴覚障がい者もいるので様々です。

補聴器は～数十万、人工内耳は手術費用も含めると～数百万円以上の費用がかかります。
最近では、防水、防塵に優れたものもありますが、雨の日やスポーツで汗をかくときには要注意です。

実は苦手な書き言葉

耳からの情報が入らない（にくい）聴覚障がいがある人たちは、視覚的に見える情報を頼りにして育ちます。
学校の中で、以下の工夫をしながら、言葉を身に付けていくのですが、聞こえる人達と同じ語彙力を身に付けるには、かなりの時間と努力が必要です。

特に、助詞・助動詞、擬音語、音読み訓読み、濁点・半濁点などが苦手で、書いても伝わらなかったり、誤解を招いてしまったりする聴覚障がい者も、なかには大勢います。

<p>絵カードを使って物の名前を覚えたり…</p>	<p>ねこ くるま</p>	<p>音を文字に直して教えてもらったり…</p>	<p>にゃー ぶーぶー</p>	<p>助詞に○を付けて強調することで、使い方を覚えたり…</p>	<p>私は散歩中に公園で桜を見た。ピンクがきれいだった。</p>
---------------------------	-------------------	--------------------------	---------------------	----------------------------------	----------------------------------

他にもいろいろな方法で言葉を勉強していますが、間違ってしまうことが多々あります。そのときには、優しく教えてください。また、「書き言葉が苦手」ということは、「文章を読むこと」も苦手を感じている人がいるということです。できるだけ短い文章で、分かりやすく示してくれると助かります。

＼聴覚障がい者 あるある／

ここからは、聞こえないことによる、日常生活の失敗談や誤解などの一例を紹介したいと思います。

<p>〈発音が良いがゆえに…〉</p> <p>私は聞こえにくいので、ジェスチャーをしたり、口を大きく動かしたりしてもらえるとありがたいです。</p> <p>いいですよ！分かりました！</p> <p>数分後…</p> <p>なんだ！結構、聞こえているじゃないか。これなら、普通に話しても大丈夫だな。</p> <p>私は発音が良い方なので聞こえていると勘違いされることが多いです。初めは気遣ってくれていても、段々意識が薄れていく人が多くて困ります。聴覚障がいであることを伝えると、途端にどこかに行く人もいて…ちょっとショック。</p>	<p>〈大きな声で話しても…〉</p> <p>耳がきこえない？なんだ、大きな声で話せばいいんだよな！</p> <p>いや…えっと…。</p> <p>明日、5時から会議だよ</p> <p>音が大きくなると騒音も大きくなります。言葉が明瞭に聞こえるわけではありません。声が大きくてうるさいと思うことも…声の高さによっても聞こえ方が違うので、普通の声や速さで口の形がはっきりしている方がありがたいです。</p>
---	---

〈真似っこ 真似っこ…!?〉

前の列の子はA班!
後ろの列の子はB班!
では、分かれてください。

前の子
聞こえない子
? !?

ついてくるなよ!
君、あっちの班だろ!

A班 B班

全体の中で、指示されたことが分からず、聞き返すこともできなかったため、とりあえず前の人の真似をして動きました。そうすると、間違った行動につながってしまうこともしばしば…;
「聞いてない」わけじゃないのです。
「聞こえない」のです。

〈怒ってる?笑ってる?〉

後はこっちですから、もういいよ😊!

(☹️)良かった♪
ありがとうございます!

怒られているのに、
なんだその態度は!😡

表情や目から、感情をくみ取ろうとしますが、マスクをしていたり、うつむいたりした状態で話をされると上手く感情が読み取れずに困ります。
結果、「空気が読めない人」と思われてしまって、人との距離が離れてしまうことも…。
目を見て、顔が見えるように話してほしいです。

最後に…

聞こえる人の中でも、性格や考え方、価値観は人によって違いますね。それは聴覚障がいがある人たちも同じです。「そんなこと当たり前。」と思う人もいるかもしれませんが、しかしながら、「聴覚障がい者」という言葉だけで、先入観も持ってしまう人も少なからずいるのです。

例えば…

<p>Q. 聴覚障がいがあることをどう思いますか。</p> <p>もちろん、誇りに思うよ! 聴覚障がいがあるから、様々な出会いがあると思う</p> <p>不便だと思う。辛い思いもしたから、次に生れる時は聞こえる人になりたい。</p> <p>何とも思っていないかな。もう、慣れていうか…。自分は自分だと思ってる。</p>	<p>Q. 音楽は好きですか?</p> <p>うーん…。雑音しか聞こえないから、残念だけど音楽の良さは分からないや…。</p> <p>好きだよ! 歌詞は聞き取れないけど、感じるリズムが心地いいな♪</p> <p>音楽は聴かないな。でも好きな歌詞はあるし、雰囲気は楽しんでいるよ。</p>	<p>Q. あなたにとって補聴器とはどんなものですか?</p> <p>コミュニケーションを取るために必要だけど、家ではあまり付けられないかな。</p> <p>コミュニケーションのためには必須アイテム! 無いと困っちゃうよ…</p> <p>アクセサリーみたいなものかな。色もたくさんあってオシャレだと思ってる。</p>
---	---	--

たった3つの質問だけで、実はこんなにも違うのです。これは、実際に私たちが今までに出会った聴覚障がいのある人たちの意見です。先入観をもたないで、ぜひ、様々な聴覚障がいのある人たちと話をしてみてください。

ここまで、いかがだったでしょうか。

一言に「聴覚障がい者」といっても様々であることが、お分かりいただけましたでしょうか。

情報の多さに、少し戸惑った方もいらっしゃるかと思います。

でも、これが私たち、「聴覚障がい者」なのです。

「聞こえない」ことを除けば、皆さんとなにも変わりません。

どうぞ、私たちと接することを不安に思わないでください。

「どう関わったら良いのか。」と心配しないでください。

私たちは困ったときに、皆さんに少し助けをお願いすることがあると思います。

その時には、少し力を貸してください。

また、私たちにもできることがたくさんあります。

一言、声をかけてください。力になります。

少しでも多くの方に、理解が広まると幸いです。



第3回学校公開・講演会・特別支援教育研修会

2月6日(土)の学校公開に合わせて、医療法人聖光会鷹ノ子病院耳鼻咽喉科の医師狩野拓也氏による講演会と特別支援教育研修会を実施しました。

中学部・高等部生徒対象の講演会では、「誰かを支える君たちへ」というテーマで、幼少時代から大学入学までの学習の仕方や、コミュニケーション方法、バレーボールとの出会い等の体験をもとに生徒たちに分かりやすくお話していただきました。また、以前に生徒が質問したことをもとに「障がいがあることと学力は関係がないこと」、「仕事に就く上での大切なこと」「やる前から限界を決めないこと」等、分かりやすくお話していただきました。参加した生徒からは、「働く上で、報告・連絡・相談が大事だと分かりました。自分も報告・連絡・相談をきちんと出来るようになりたいです。」の感想が聞かれました。

特別支援教育研修会では、教職員や保護者、地域の学校の先生方を対象の研修会を開催しました。「聴覚障がいのある医師 狩野拓也」というテーマで難聴について、難聴によるコミュニケーションの困難、医師としての聴覚障がい教育に求められることなどについてお話をしていただきました。また、自分自身も聴覚障がいであること、人工内耳装用者となった自分の在り方についても紹介していただきました。参加者にとって今後の教育活動に役立つ内容が多く、大変勉強になる貴重な研修会でした。

狩野先生、ご多忙にもかかわらず、私たちのために貴重な時間をいただき、本当にありがとうございました。



バーチャル文化祭 2020 作品展

愛媛県視聴覚福祉センターでは、
視覚障がい者、聴覚障がい者の方々が制作した
絵画・図書等の作品展示を行います。

協賛団体
アトリエ心屋
愛媛県立松山盲学校
愛媛県立松山聾学校

会期 令和3年

2月15日～3月15日

場所

愛媛県視聴覚福祉センター 松山市本町6丁目11-5
3階フロア TEL: 089-923-9093
入場無料 ※初日休館 FAX: 089-923-9224



バーチャル文化祭 2020 作品展

松山聾学校、幼児児童生徒の、図工・美術作品や造形作品を展示しています。コロナ禍の中、今後、ネット上で、展示の様子を動画で見られるように準備中です。是非、ご覧ください。

場所

愛媛県視聴覚福祉センター3階フロア
(松山市本町6丁目11-5)

会期

令和3年2月15日(月)～3月15日(月)



書籍の紹介

『手話の学校と難聴のディレクター ～ETV特集「静かで、にぎやかな世界」制作日誌』 長嶋 愛 (著) ちくま新書

ドキュメンタリー「静かで、にぎやかな世界」(NHK・Eテレ)の舞台裏を書籍化。手話を第一言語とした教育を行うろう学校(明晴学園)で学ぶ子どもたちの姿を描くノンフィクションです。



『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた30のこと』

五十嵐 大(著) 幻冬社

「もしかすると、ぼくは母親の胎内にいたとき、国に“殺されて”いたかもしれない……。・・・優生保護法」幼少期の頃のぼくは、障害者、特にろう者のことを嫌っていた。」耳の聴こえない親に育てられた子ども“コーダ”である著者が、母との格闘の日々を綴る。



『きらめく拍手の音 ～手で話す人々とともに生きる』 イギル・ボラ(著) リトル・モア出版

21歳で自らが「コーダ」と呼ばれる存在だと知った著者は、同じコーダの仲間と知り合い、彼らの声を集めて、「コーダ」がどんな存在かを見つめなおす。韓国の映画監督、作家である著者の家族との対話、葛藤を綴るエッセイ。



『聴覚障害教育の手引 ～言語に関する指導の充実を目指して』 文部科学省

重要性が増す「言語指導」について解説。手話や指文字など多様な方法を活用する際の基本的な考え方や、実践例についても解説。

文科省からダウンロードも可能です。



『手話でつながる世界のあいさつ』 全国手話通訳問題研究会

国によって言葉が違うように、手話も違います。挨拶を25か国から集めています。



『新しい手話 2021』 全日本ろうあ連盟

毎年、刊行される新しい手話のまとめ。2021年版です。



日本語の習得をめざした日本語学習ドリル

みるみる日本ご みるくとくるみの大ぼうけん

ろう・難聴児は、耳から得る情報が少なく、自然な言語習得に困難をきたします。単語レベルでいうと、「かぼちゃ」が正しくききとれず、「かぼさ」と書いたり、「わらう」と「あらう」が同じようにきこえたりします。

国語文法の自然な習得も難しく、「いすに座る」→「いすを座る」「字を書いた」→「字を書きた」「楽しかった」→「楽しいかった」と書いてしまう等、助詞使用や動詞・形容詞などの活用変化を身につけさせるためには、適切な教材と指導者の高い専門性が求められます。

このドリルでは子どもたちの日本語学習に活用できるよう、広い視野に立って精選しつつ演習を進めました。

さまざまなニーズをもつ子どもたちが、日本語を楽しく学習できる、青・黒の2色刷、わかりやすいイラストが満載のドリルです。



中学生・高校生・オトナのための日本語ドリル

みるみる日本語 MIRUKUとKURUMIの大航海

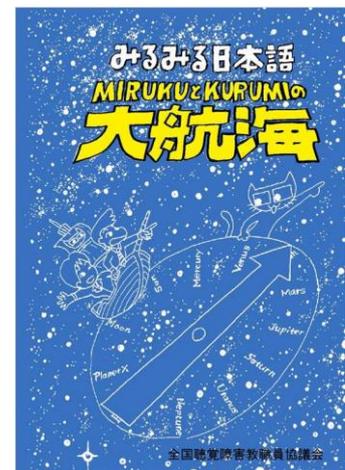
きこえない先生からの贈り物

日本語への苦手意識をなくそう！

日本語のおもしろさを知ろう

【特徴】

- ① 日本語の語彙や読みから入り、慣用句等が楽しく学べる。
多くのページに直感的理解を促すイラストが入っている。
- ② 「～ないことはない」といった二重否定、ビジネスマナーに直結した敬語の理解を重点的に取り上げた。
- ③ 物語、説明文など文を多角的に捉え、読む力(トップダウン)、豊かな文を各力を伸ばすリテラシーを重視。
- ④ 人に話しかけるときは、「すみませんが」といった言葉のワンクッションが大切なこと、メールや手紙の書き方を実践的に学ぶなど、ソーシャルスキルの学習に多くのページが割かれている。



この二つの書籍は、発音発語室の廊下にありますので、興味のある方は、ぜひ一読ください。

編集後記

おかげさまで、「みみちゃん」は100号をむかえました。

1号から振り返ってみると、本校の学校行事、聴覚障がいに関する情報や機器などが数多く掲載されています。補聴器が小さくなったり、情報機器が便利になったり……時代は変わっていくものだとしみじみ思います。しかし、時代は変わっても松山聾学校の教育に対する熱い想いは変わっていないことも、同時に実感しました。「みみちゃん」は、発音発語室にありますので、興味のある方は、自立・連携課までお問い合わせください。

